

# APORS 会議ご支援を謝して

福川 忠昭 (組織委員会委員(会計担当))

月日の経つのは早いもので第3回APORSが成功裏に閉会して半年になります。まだプロシーディングスの発行・送付や決算処理など残っている仕事はありますが、お金の面で大きな問題もなく開催できましたことは、ひとえに大会を支援してくださった多くのスポンサーのお陰と感謝の気持ちで一杯です。

日本が今大会の開催要請を受けたのは1991年8月に開かれた前回の北京大会の時でした。すでに日本の景気は調整期に入っており、低迷が長引きそうだった話を耳にすることも多かったので、お金の面で苦労することになるのではと心配になったことを思い出します。実際、開催場所や会場、付帯設備なども財政的な目処の立たないうちに選定せねばなりませんので、かなり厳しい状況を前提として準備作業に入らざるを得ませんでした。そのため、はじめの頃には、関係する多くの方が自弁・持ち出しで準備作業を進めていくといった状態でした。

景気の回復を待って募金活動を開始しようと考えていたのですが、そうした甘い期待はあっさりとはずされてしまい、1993年の暮れも押し迫ってよいよ本腰を入れてお金の問題に取り組みざるを得なくなりました。賛助会員企業を中心に、多くの企業や財団に対して学会役員および関係のある学会員にお願いして、APORS開催の意義のご理解と資金面のご協力を働きかけていただきました。

その一方で、1994年4月には日本万国博覧会記念協会が行っている国際会議開催を支援するための補助金の交付申請手続きをとりました。補助対象となる事業費目に制限はありますが、6月初めに申請額の半分ほどが認められたとの知らせを受けたときには、これでどうにかやりくりできそうだと少しホットしました。何故なら、開催1カ月前というのに寄付金はまだ予定の半分も集まっておりませんでしたし、参加申込手続者数も当初の想定をはるかに下回るものだったから

でした。ただ、アブストラクトを送ってきた発表申込者の数はかなり多いものでしたので、参加者の数はそれほど少ないことはないであろうと考えておりました。

6月の中旬になって西日本旅客鉄道(株)とアサヒビール(株)から、また(株)日立製作所からもご寄付をいただくことが確定してようやく財政的な目処を立てられるようになりました。お陰でその後は、国際会議を有意義なものにするための大会運営に知恵をしぼることに専念できるようになりました。

リストラやリエンジニアリングの真っ最中にもかかわらず、最終的には多くの企業が寄付に応じてくださいました。ご寄付をいただいた企業・財団は先の諸社の他、富士通(株)、日本電気(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、東京ガス(株)、日本電信電話(株)、(財)旭硝子財団、中部電力(株)、(株)構造計画研究所、花王(株)、キャノンソフトウェア(株)、(財)日本科学技術連盟、(財)電力中央研究所など総数37社・財団にのぼりました。あらためて心よりお礼申し上げますとともに、紙面の関係からすべてのお名前を記すことができませんこととお詫び申し上げます。

なお、大会は財政的な支援だけでなく、その他にもさまざまな面からの支援を受けて開催されました。大会開催中のテクニカル・ツアーにご協力くださいました新日本製鐵(株)、(株)安川電機、三菱化成(株)の各社、また会議を側面から支援してくださった福岡観光コンベンション・ビューローならびに縁の下の役割りを担って支援していただいた東急観光と会場の福岡リーセントホテルに対しても感謝申し上げます。

大会を成功裏に閉幕できましたのは、何よりもスポンサーの方々から多大のご支援をいただけたからと組織委員はじめ大会に関わった者たち一同、深く感じ入っております。大会が掲げた主題に沿ってORの実践と研究に一層邁進することでお礼に代えさせていただきたいと思っております。

ふくかわ ただあき 慶應義塾大学

〒223 横浜市港北区日吉3-14-1